

開会の日時及び場所 平成28年5月17日(火) 午前10時00分
東温市庁舎 4階 大会議室

議事に出席した構成員 市長 高須賀 功
教育長 池川 仁志
教育長職務代行者 菅原 正夫
教育委員 遠富 英子
教育委員 大政 美智子
教育委員 本田 隆彦

議事に出席した職員 総務部長 永野 昌二
事務局長 高須賀 広一
総務課長 渡部 祐二
学校教育課長 加藤 厚志
保育幼稚園課長 丹生谷 衛
生涯学習課長 池田 隆太
学校給食センター所長 大石 廣子
学校教育課指導主事 築山 信雄
学校教育課長補佐 松本 則一
保育幼稚園課長補佐 近藤 和明
生涯学習課長補佐 宮内 仁司
生涯学習課長補佐 渡部 昌弘
中央公民館副館長 高原 さゆり
歴史民俗資料館副館長 近藤 初美
図書館副館長 渡部 光長
学校教育課主査 長曾我部 憲一郎

傍聴人 4名

午前10時00分開会

高須賀事務局長

只今から平成28年度第1回東温市総合教育会議を開催いたします。

東温市総合教育会議設置要綱第4条に基づき、総合教育会議は市長が議事の進行を行うことになっておりますので、よろしくお願いいたします。

高須賀市長

それでは、私が議長を務めさせていただきます。

傍聴を希望されている方がいますので、許可してよろしいでしょうか。

(異議なしの声) 賛同を得ましたので、入室を許可します。

(傍聴者入室)

高須賀市長

始めにご挨拶を申し上げたいと思います。改めまして皆さん、おはようございます。

今年度第1回の総合教育会議を招集いたしましたところ、教育委員の皆様方には何かとお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

始めに、この度、熊本・大分で大震災が起きました。たくさんの方がお亡くなりになり、被害も沢山ございましたが、亡くなられた方にはお悔やみとお見舞い申し上げます。そして、まだまだ余震が続いておりますが、一日も早く終息し、国においても一日も早く復旧・復興を皆さんと一緒に祈りたいと思います。

東温市におきましても、熊本地震発生直後、消防署におきまして緊急消防援助隊が出動待機しておりましたが、今は解除となっております。

その後、県を通じまして備蓄米がございましたので、アルファ米350食、乾パン512食を熊本県上益城郡御船町に提供しました。また、義援金箱を本庁・川内支所・さくらの湯に設置しましたところ、今日現在で約5万円。一方、市役所職員にも義援金を募るように指示しましたところ、33万8千円集まりました。明日、日赤の愛媛県支部に私が持参したいと思っております。お世話になりました、ありがとうございました。

さて、本日は教育行政におきます非常に深刻な問題でございます、少子高齢化による児童数減少対策について皆さんと協議をしていきたいと思っております。

私は、現在、集落支援員や地域おこし協力隊などにより、持続的な地域の活性化に向けて取り組んでいるところでございますが、同時に、地域のよりどころである学校、特に小規模校を存続させることも非常に重要でありますので、現在の通学区の弾力的な運用を検討する必要があると思っております。

また、本年3月に重大事態と認定しました、いじめ事案につきましては、第三者委員会に調査をお願いしておりますので、進捗状況や被害児童の様子などを担当者から公表できる範囲内で報告を受け、情報共有をしておきたいと考えております。

いずれにしましても、少子化やいじめの問題はもとより、本市の教育行政において重点的に講ずべき施策について、教育委員の皆様と協議し、共通認識のもと、積

極的に推進してまいりたいと考えておりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

高須賀市長

協議第1号として、就学指定校変更の要件と手続について協議を行いたいと思います。事務局から説明をお願いします。

加藤課長

(今年度の総合教育会議のスケジュール及び就学指定校変更の要件と手続について資料に基づき説明。)

高須賀市長

事務局の説明が終わりました。委員の皆様のご意見やご質問がございましたら、お願いします。

池川教育長

小規模校の上林小学校、東谷小学校、西谷小学校の児童数は減少傾向にあります。これらの学校は自然に恵まれ地域の教育力が非常に高い素晴らしい学校です。

そのため、児童数を増やす努力を行いまして、児童・地域にとって良い学校、大切な学校にしていきたいと思っております。

大規模校からこれらの小規模校への通学を希望する児童がどれだけいるかについては、現在、把握しておりませんが、大人数の学校ではなく、小規模校できめ細やかな指導を受けたいと希望する児童・保護者はいると考えております。

なお、この取り組みは市教育委員会だけで進めていくことは出来ませんので校長先生、また地域の方々と連携をしながら進めていきたいと思っております。

本田委員

地域またPTAの理解が大事だと思っております。小さい区域の学校のほうが大きな学校よりも地域の結び付き、保護者との結び付きは強いと思っておりますので、6月・7月に予定されています協議が、しっかり理解していただけるように出来たらありがたいと思っております。

遠富委員

大変素晴らしいことだと思います。私は保育園・幼稚園の就学教育相談事業に関わって幼稚園生活の様子を見て、このままの大規模な小学校に就学するのが不安かな、少人数の学校で細やかに見てもらえば、もっとスムーズな成長が望めるのではないかなと思われる子供さんが結構おられました。

それは、特別支援教育の該当には当たるか当たらないか微妙なところで、こういう事が出来たらいいなと前から思っておりました。素晴らしいことだと思っております。

大政委員

1 1月に保護者周知とありますが、説明会を開催するのでしょうか、資料の配付だけになるのでしょうか。

加藤課長

ホームページや広報等で申込みの案内や手続の説明を周知させていただく予定です。保護者への説明会は予定しておりません。

大政委員

保護者や地域の方が意見を言いたい場合は、聞き入れてもらえますか。

加藤課長

保護者へのアンケートを実施しますので、このアンケートでニーズ調査やご要望、ご意見などありましたらお聞かせいただきたいと思いますと考えております。アンケートを集計した時に、その後の弾力的運用の実施に当たって反映させていただきたいと思っております。

菅原委員

小規模校の3校は非常に小さい学校ですが、地域と連携をとって協力が出来ていて、子供たちも伸び伸びしています。時々学校に行かせてもらって良く分かります。

ただ、存続ありきの考えは良いですが、小規模校にはメリット、デメリットがある訳です。教育の目標というのは、生きる力を育む。生きる力とは、確かな学力、健康体力、3つ目が豊かな人間性。この3つ目については、小規模校ですから先生の数も少ない。子供も少ないという事で各学校はいろんな工夫をして、他の学校と修学旅行や団体行動をとるようにして、少しでも同じ歳の6年生の子供たちと一緒にいろんな考え方を聞いたり、遊んだりしています。でも、やはり生徒数が少なくなってくると限界も出てくる気がします。

上林小学校は平成30年から1学年1名、東谷も平成34年には2名の学年が3学年になり、僅かですが少人数化しています。その状況で保護者のアンケートもありますので保護者の意見が出てくると思いますが、去年から複式授業になりました西谷小学校、ある父兄の関係者から聞きましたら、不安を持たれている方もいます。そういう状況も続いています。

もう一点、不安に感じているのが文部科学省の馳大臣が次の指導要領では小学校が20年だろうと思いますが、大きな目玉にアクティブラーニングというシステムを取り入れる予定です。これからの子供たちの将来に渡って生きる上で、やはりアクティブというのは能動的という意味で、もちろんアクティブラーニングというものを東温市の学校もかなり取り入れているのを目にしますが、子供たちに考えさせて2人、3人、4人のグループで一つのことをテーマとして議論して学んでいく、

そういう形式をとる授業が増えていく。その中で果たして1学年2名でやっていけるのか、当然お母さん方が不安に持つと思います。

そういう面も考えますと、確かに存続も大賛成です。出来るだけ存続して欲しいと思いますが、マイナス面もあるということをお頭において、保護者の皆さん地域の皆さんがどう考えていくか、特にほとんどの学校は明治初期にできた歴史のある学校です。地域と一緒に歩んできた事実もある訳ですから、今の課題として、存続についても考えながら、一番どうしたら存続していくかを考えて頂きたいと思います。

現実として小規模のデメリットがあるということは頭において考えて頂きたいとお思います。

遠富委員

小規模校のデメリットはもちろんありますが、小規模校の良さというのはそれに勝るくらいあります。東谷小学校に勤務したことがあります。また由良小学校という小さな学校に勤務したことがあります。本当に地域の方と、教員と、子どもの三者が一緒になって教育を行い、本当に素晴らしい、それぞれに個性的な教育が展開されていて、せっかく、三つのそういう学校があるのを無くしてしまうのは、非常に大きな財産を失うような気がして勿体無い。

それと、今度、就学を弾力化するという事で入りたいと希望されるであろう、これからのそういう希望者の子どもたちの教育の面からでも大変有意義なことであり、教育は一人一人の個性にあわせた、個に応じた教育ということをお大変言いますけれども、大規模校では、なかなか難しい。

松山市の由良小学校はもう閉校になってしまいました。一人一人の教育と言いながら、実際は集団で教育することの方が優先されて、経済的な面が優先されて消えていくのが実態ですが、東温市はそれを何とか頑張って踏みとどまって一人一人が適切な教育を本当にやるんだという、これをこの制度で示すことができると思います。ですから東温市にはどんな子どもでも大切に教育してもらえ、東温市を子育ての町という風にやっけて行くためにはこれが非常に良いことだと思おいます。

それからアクティブラーニングは少人数であるからこそ効果が発揮されるという面もあります。かつてゆとり教育について非常に非難が出ましたけれど、教員が十分に方法や意義について理解できないままに行われたところも多々あって、それで本当の成果が得られなかったのではないかと私は考えています。今度のアクティブラーニングについても小さい学校の方が一人一人の子どもの主体的な学習を細かく目を行き届かすことができるので、小規模校なりの良い教育が進められると私は思おっています。

高須賀市長

はい。他にございませんでしょうか。

本田委員

小規模校でのアクティブラーニングというのは、1名ではしんどいと思いますが、ある程度の人数をかければ、かえっていいのかなという風に思います。

以前から総合的な学習時間の中にやっているアクティブラーニング的な取り扱いをしてきたものがあるようですが、何か十分機能しなかったのは、やはり教員がたくさんの子どもに当たらなければいけない、そういった無理な条件があったためだろうと思いますので、東温市ではそういった小規模校でこそ、アクティブラーニングが実践できるようにやっております。

それで、これを実施するにあたってはもちろん、変わる子どもにもプラスではないといけないと思いますが、変わっていく学校やその学校の子どもたち、地域にとってもプラスである必要があると思います。

まだ細かい要件等は決められて行くと思いますが、変わっていく子ども、また、保護者の方にもその地域に自分はしっかりと入って行くんだと。学校の教育方針を理解して、また必要であれば学校の行事、地域の行事にも参加するような、そういう心構えを持って関わって頂くという、そういう要件について協議の段階ではさらに細かく決めて行く必要があると思います。

高須賀市長

はい。他にございませんか。

遠富委員

周知については、小学校の教員、小学校の保護者の方々はもちろんですが、これから就学をされる保育園や幼稚園の保護者の方、そして、指導される先生方、教育相談をされる方々、就学指導に係っている全ての方々が、この新しい就学制度が東温市にできたことをしっかりと知って頂いて是非、来年度はスタートができるように希望をします。

高須賀市長

はい。他にございませんか。

本田委員

「変更の適否を判断します」という、その判断はどういう方々が関わっていますか。

高須賀市長

私もそれを聞こうと思っていました。保護者が申し出たら総合教育会議で決めるか、どこで決めるのかが一つの質問。

二つ目は中予教育事務所がありますので、そこにアドバイスを聞いて適切にしてもらいたい。

三つ目に例えば砥部町は砥部町以外から山村留学など来ております。市内同士で良い事例など、どのような事例があるのか調べてみてくれませんか。

他ではあります。人が少なくなって廃校になったらいけないので他の地区、市、町から受け入れております。同じ市内なら市内、町内なら町内であれば、東温市教育委員会の単独でできるのですか。

資料の1ページに「指定校の変更について保護者が申し立てることができる」とありますが、教育委員会で決めるのですか。それとも総合教育会議で決めるのですか。

加藤課長

決定するのは定例の教育委員会等でご協議いただきます。

高須賀市長

総合教育会議では報告だけですか。

加藤課長

はい。

高須賀市長

皆さんに適切に判断してもらいたい。「保護者が申し立てることができる」というだけで、その決定権は皆さんにある訳ですから。デメリットやアクティブラーニングなど総合的な判断をするのは皆さんです。

菅原委員

恐らく今も現実的にはあるのではないかと。ただ、それをこの3校をより存続していくために明文化をして学校を守って行こう。そういう趣旨です。

遠富委員

一番の目的は存続ですか。

高須賀市長

両方ですよ。ですからメリット・デメリットの説明を。

遠富委員

私は子どもと保護者の立場になってしまいますが、今までの教育の中で、もっと伸ばしてあげられると、つらい思いをしながら保護者も教員も苦しんでいる。そういう可能性のある子どもたちを更に良い環境へと思っています。

池川教育長

この指定校以外の学校に就学するという事は、従前から配慮を要する子どもさんの実態に応じて適切に行っていました。

この提案につきまして、子どもたちは、小学校1年生でも2年生でも3年生でも年齢によって学年を区切りますが、発達段階もそれぞれ違っております。そして、性格も全然違っております。

ですから、大規模校でなかなか自分を表現できない子どもさん、そういう子どもさんにおいても、少人数のところに入って、そして地域に大切にされながら学校生活を送ることによって自分自身を表現することができるような子どもさんに大きく成長する可能性があります。

だから、それぞれの子どもさんの実態を保護者に十分に把握して頂いて、どのような環境で学ばせるのが一番良いのか、ベターなのかと、幅を広げていきたいという事が大きな願いです。

それが最終的には小規模校の児童の増加にもなり、地域の活性化にも繋がって行く、そのように考えております。

ですから、当然小規模校を廃校にすることが無いように願いながらの対応と同時に子どもたち一人一人の学びを保障して行くという二点から考えての提案でございます。

遠富委員

保護者が希望することがスタートになると思いますが、保護者が希望を決心する、それまでに色々な段階がたくさん踏まれるべきだと思います。一時の感情で決心するのではなくて。

例えば、日頃の子どもの様子など担任と協議をしながら、どういように指導して行けば良いか悩みを持つと思います。東温市で行っている教育相談、巡回教育相談を受ける。そして、それぞれの専門の方の相談も受けて、子供さんについては少人数でやるのが教育的に非常に効果があります、となった場合に、保護者さんに区域外就学の方法があることも説明をする必要があると思います。

いくら周知しても保護者さん自身は具体的にはなかなか理解は難しいと思いますので、専門的な方が関わって、希望以前の順序は適切にされるべきだと思います。

本田委員

大規模校では子どもが育ちにくいので小さな学校へ行くという、そのパターンも考えられますが、積極的に小規模校で学んでみたいという子どもがいて、それを保護者が希望する、という場合もあると思います。

それは駄目というようなことではなく、そういう声が出れば、条件を整えば受入れが必要ではないかと思えます。

先ほどお話がありました広田の山村留学は、そういった子どもたちが、親元を離れて自活をすることや自然に触れることを望んで山村留学しています。ですから、

そういう部分もあると思います。

子どもにもプラスになり、受け入れる学校もプラスでなければいけない。しかし、出て行く学校がマイナスになるのでは困るということもあると思います。

時には、その子どもが1人抜けたら1学級になってしまう、その子どもがいれば2学級になる、という場合もある訳です。

たくさんの子どもが十分な手立てをして頂ける条件が少し薄れるということも、考えると両方の学校の代表者もその決定には関わる必要があると思います。

高須賀市長

小規模校の子どもが、大きなところで鍛えられたいから大規模校に行きます。と希望すれば弱りますね。ですから私は逆も言っております。

だから、皆さん教育委員の方は、十分議論して学校の充実、更に学校の子どもの充実にも配慮して的確に決めてもらいたい。

1 ページに「保護者が申し立てることができる」申し立てることができるとなれば、大規模校に子どもを行かした方が切磋琢磨できると考える場合もあります。

本田委員

確かに、そういう議論に発展して行くと思います。

大規模校ではない子どもが小規模校に行ける。小規模校では物足りない子どもが大規模校に行ける。それは色々な議論があると思いますが、私はこの制度は、良いと思います。

ただ、問題があるというのだけ、頭においてこれからのスケジュールでやってみましょう。いろんな問題が出てくると思います。特に保護者の意見はよく聞いてもらいたい。

大政委員

「指定校よりも小規模な学校へ」と書いてありますので、逆はないです。

高須賀市長

逆はないのですか。

菅原委員

はい。逆はできないようになっております。それが良いかどうかという議論が起こるのではないかと。

高須賀市長

西谷、東谷の子供が大規模校へ行きたい場合は、どうでしょうか。

本田委員

そのような要件を作って下さいと出てくるかもしれません。

高須賀市長

東谷の子どもは、自由に希望ができるのですか。

本田委員

いいえ、これは出来ません。出来ませんが、それが出来るようにする、という意見は当然出てくると思います。

高須賀市長

分かりました。

大政委員

「指定校よりも小規模な学校」と記載がありますから。

菅原委員

片手落ちかもしれませんので、いわゆるフリースクールみたいなもので、全部フリーにするなど、両方できればいいのかもしれませんが。

大政委員

いじめなどで、どうしても動かなければいけない場合は以前からありますので。

菅原委員

そういうのも含めてという意味ですか。

大政委員

いいえ、いじめの子どもに既に別要件で入っています。

菅原委員

今までこれを明文化したものが無かった訳ですよ。

大政委員

あります。

高須賀市長

ありがとうございます。いずれにしても、皆さんの責任が重大だと思います。

菅原委員

それより以前にこの制度を作っていく過程の保護者の意見、地域の意見の方が大事だと私は思います。できれば就学前の保護者にも意見を取って欲しいです。

高須賀市長

何か他にございませんか。

大政委員

私が松山から転居の時に子どもの学期が残り2週間あったので、車で通学しましたが、その時に市役所に相談に行って少し冷たくされました。書類だけ用意して下さいなど。

そのような場合があるので、窓口がどこになるか分かりませんが、親身に相談

に乗って対応して欲しいと思います。

高須賀市長

他にございませんか。いずれにしても、こういう方向で行くことには賛成でございますか。

委員全員

はい。

高須賀市長

異議なし、ということですが、今までの意見を踏まえて、今後の対応は十分にしたい。また、アンケートをする時は、幼稚園や保育所などの意見も聞くべきかと思います。

事務局に対応して頂くことで、よろしいでしょうか。

事務局

はい。

高須賀市長

はい。よろしく申し上げます。それでは次の議題に移ります。

第2号、東温市いじめ問題調査委員会の経過報告について事務局から説明願います。

高須賀局長

(東温市いじめ問題調査委員会の経過報告について説明。)

高須賀市長

ただ今の説明に対して何か聞きたいことございませんか。

菅原委員

今の状況がよく分かりました。もう少し詳しくお聞きしたいのですが、時々、保健室で休んでいる。と言うことは、1週間のうち大半は通常教室で授業受けていると理解してよろしいでしょうか。

高須賀局長

毎日集団登校をしております。ただ授業中に頭痛がするなど、体調が悪い時は配慮をして保健室で休ませております。

菅原委員

数時間でも毎日保健室に入らないといけない状況ですか。

高須賀局長

いいえ、毎日ではないです。

菅原委員

焦ってもいけませんので、通常教室で授業できるように。ほとんど欠席は無いのでしょうか。

高須賀局長

はい。無いです。

大政委員

一番大事な2人の児童について、今のご報告では、順調に登校ができていて、概ね1学期は楽しい、と言って生活しており、嫌なことは無い。とアンケートに答えているということなので、この一番大事にすべき子どもさんは今良い状態なので、本当に、学校の配慮、教育委員会の配慮は功を奏していると思います。

ただ、安心してはいけないので、担任の先生は非常に心を砕いているとは思いますが、フォローして会話しながら支えて行ったら良いと思います。

高須賀市長

専門家である、先生、弁護士、臨床心理士、カウンセラーがいますので、その先生たちに聞いてもらいましょう。

本田委員

できる限りのことはして欲しいと。

大政委員

親御さんのフォローはもちろん大事ですが、子どもを育てるためのフォローなので、親のことが中心ではなくて、子どもを良くするためのフォローが必要です。

菅原委員

そう思います。

大政委員

はい。

高須賀市長

他にございませんか。

池川教育長

昨年度の重大事態を受けて、教育委員会の今の取組を説明させて頂いたらと思います。

教育委員会として本年度の最重要課題をいじめの根絶としまして、笑顔で登校し、笑顔で下校できる学校づくりということで、校長を中心として、各種研修会でもそういうことを説明し、具体的な取組を各学校で進めて頂いております。

その一番は、やはりいじめ情報をどのように共有化し、即行動していくか、そのシステム作りの点検を各学校にさせていただくよう指示をしております。

その報告を校長会ごとに設けて、それぞれの学校の取り組みについても情報交換をしているところでございます。

それと、教育委員会としてはその取組を支援する訳ですけれども、それ以外に教育委員会として新たに今年度取り組むことといたしましては、やはり、教員の指導力向上を図るために夏休み中に新たに講演会を計画しております。そして、講演会を聞いて、自分自身の現在の生徒指導のあり方というのを振り返ってもらうと同時に、それぞれ学校で研修主任・教頭・生徒指導主事が居り、それぞれの任務を背負った主任職がおりますので、それぞれの主任職として、このいじめ根絶にどのように向き合っていくことができるか、具体的な行動を起こすことができるか、それについてもそれぞれの部会で検討をし、具体的な方向性を作成して頂くこととしております。

もう一点は、いじめストップ子ども会議をしておりましたが、今年度も引き続いて実施をいたします。特に、学校が何をするか、学校が指導体制をどのように組み立てていくか、それは当然大切なことですが、やはり、子どもたち自身が自分たちの学校をより良くしていかなければいけない、いじめのない楽しい学校作りをしていかなければいけない、という気持ちを持って具体的に、主体的に活動してくれることが一番大切だと思いますので、いじめストップ子ども会議の運営の方法についても、子どもの意見を取り入れながら、また、それぞれの学校の教職員の意見を取り入れながら、より充実したものにして行きたいと思っております。

高須賀市長

教育長の説明に付きまして何かございますか。

大政委員

私も子ども同士が一番解決するのが良いなと思えます。

他の県では学校ごとに、学校内で子どもたちがいじめに対する委員会をしているところもあるみたいなので、そのような会議をもっとどんどん進めていって欲しいと思います。

池川教育長

はい。それぞれの集会等を通して、自分たちの学校をより良くするにはどうしたら良いのか、これは人権作文もそうですし、標語もそうですし、その機会あるごとにそのような話し合いを進めております。

また、このいじめストップ子ども会議でもそれぞれの学校で取り組んでいるその取組を発表する機会も設けていこうと思っております。

高須賀市長

いずれにしても教育を強化して頂いて、撲滅して頂きたい。ということです。

池川教育長

はい。

高須賀市長

他にございませんでしょうか。

菅原委員

非常に良くしていただいているのは分かりますが、この問題を通じて、いじめだけではなく、学校内で一つの問題が起きたときに担任の先生が一人悩んだり、学年主任の先生が一人悩んだり、あるいは責任感の強い教頭先生が一人抱えて悩んだり、一部はそういうことも起きるかもしれませんが、やはり校長先生以下、チームでみんなが話をしながら解決できるように。これは、普段からそういう一つのチームワークができないとなかなか、いざ問題が起きた時になって、どこの組織でも社会でもそうかもしれませんが、そういう事が無いように注意するように、また、校長先生の対応等についてもご注意いただきたいなと思います。

本田委員

組織での対応が一番大事とずっと言われていますが、そこが少しくまういかなかった時に問題が大きくなっていくと言うことが考えられますが、また今、対策して頂きましたけど、繰り返し繰り返し、一回ではなくて何回も何回も繰り返し、取り組んで頂いて、一人で判断しない、一人で対応しない、ということを徹底して行けたらなと思います。

高須賀市長

私も賛成です。校長以下、チーム学校でやっていただきたい。いじめなどは、先生が一人で抱えております。だからいけない。チーム学校でやってもらいたい。

菅原委員

だいぶ改善されましたが、学校の組織は一般の社会と違って、まだまだの所があると思うので校長先生よろしくお願いします。

高須賀市長

他にございませんか。それでは、無いようですので、その他について事務局、何かございますか。

加藤課長

(学校教育課から、重信中学校の大規模改修工事、小中学校アウトリーチ事業、今後の防災管理体制のルール作りの予定について説明)

丹生谷課長

(保育幼稚園課から、幼児教育・保育施設利用状況、放課後児童クラブ利用状況、一時預かり保育について説明)

池田課長

(生涯学習課から、ジュニアリーダー育成講座、滑川野外活動研修施設活用、読書活動推進計画、歴史民族資料館について説明)

大石給食センター長

(給食センターから、地産地消の推進について説明)

高須賀市長

各課からの事業の報告等がありました。何か質問ないでしょうか。

遠富委員

地産地消で県1位ということですが、私は以前に松山市で給食を担当したことがあります。その時の例としては、瀬戸内産のひじきは大変品質が良くておいしい。しかし、高い。だから給食費で賄うためには、味が落ちて品質も落ちる他の地域の物を使っていました。地元の子どもに地元のおいしいものを食べさせてあげられないのがつらいという話を聞いたことがあります。

けれども、実際に東温市の場合、給食費はそんなに高くないですね。それでこのような高い率で地元の安心な食材を使って給食が作られているということは、地域の農家の方々の協力、そして給食センターの皆さんの頑張りでこれが達成されているのだと思い、素晴らしい事だと思います。

給食は安心して食べることが一番です。私は今治、松山の給食を経験しましたが、東温市が一番おいしいです。

高須賀市長

他にございませんか。

大政委員

防災についてですが、前回の教育委員会の時も色々な意見が出ましたが、危機管理課では、避難場所は小学校、中学校になってまいすが、指揮官がどちらになるの分からない。それは去年も同じような答えでしたので、全然進んでないのかなあと思いましたが、今回はご説明があるのでしょうか。明確な答えを楽しみにしております。

遠富委員

放課後児童クラブの状況が大変良いと思います。去年までは4年、5年、6年生の子ども達は利用できなかったのですが、今年は合計で85名の放課後クラブを利用していると言うことは、そのご家庭の親御さんも安心して働くことができ、また子どもたち自身も友達と安心して放課後を過ごすことができる、本当に素晴らしい事だと思います。

給食もそうですが、子育て支援についても、きらりと光る東温市の一つの実践で

はないかと思えます。

高須賀市長

はい。ありがとうございました。

菅原委員

小中学校アウトリーチ事業の説明を受けましたが、非常にいい事業だと私は思っております。

こういう演劇、あるいは体育のレベルを上げていただいて、毎年繰り返されていき、いつかは小学生、中学生が坊っちゃん劇場で、そういうものができるようになればいいなと思っております。よろしくお願ひします。

前に総合教育会議でスポーツには優秀な方を表彰する制度がありますが、文化にはないので是非とも作ってほしいと話をしましたが、本年度からそれを作っていたいて、運用をしていただけるのではないかと思うんですが、全国大会で優勝と言う条件がありますが、優勝に準ずるなど、制度を作って一人でも多く表彰して頂けるようにしていただけたらと思ひます。毎年1人か2人くらいは表彰されるような制度にしていだければと思ひます。

保育園、保育園の利用状況で川内保育園で全員入所できたということですが、定数が130名で利用数が141名、この差は先生方が苦勞されていくのではないかと思ひますが、先生方の数は大丈夫でしょうか。例えば0歳児が非常に少ないので、相殺して先生がなんとか足りているとか、そのような計算で苦勞されていますか。

丹生谷課長

先生の数は、子どもさんの入所・入園してくる数にあわせて、例えば0歳だったら3人に1人の保育士、1，2歳だったら6人に1人の保育士、3歳だったら20人に1人の保育士、4，5歳は30人に1人の保育士というような基準がありますので、基準については確保した上で、なおかつ、フリーの保育士を配置して、なおかつ支援が必要な子どもに対しては支援員を配置する、と言うような形で職員数は充足しております。

菅原委員

逆に言えば、定数を増やせば良いかと思ひますが、定数を増やされないのは施設の規模からですか。

丹生谷課長

はい。3，4，5歳の部屋が川上の場合は1クラスずつしかありません。その状況で、定数を増やしていくと、部屋の数、部屋の面積数など難しい部分があります。しかし、まだ10人、20人は実際には増やすことは可能でございます。そのあたりは今後検討していく部分でございます。

本田委員

施設の標準規模に比べて子どもの数が多いという、結果的には多くなってしまうということですね。

菅原委員

はい、分かりました。いずれにしても全員は入れたということですね。

丹生谷課長

川内も4月の段階では全員希望通り入っております。定数よりは多くはなっておりますけれども。

菅原委員

いずれにしても、大変ですが、よろしくお願いいたします。

遠富委員

待機児童ゼロは素晴らしいことです。先日、県外の人に会って話をしたことがありますが、東温市はゼロです。と胸を張って言いました。

丹生谷課長

はい。ゼロでございます。

高須賀市長

はい。他にございませんか。他に無いようでございますので、議事を終了したいと思います。

委員の皆様、貴重なご意見、本当にありがとうございました。また今後ともよろしくよろしくお願いいたします。

高須賀局長

それでは以上を持ちまして平成28年度第1回総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。

(午前11時30分閉会)